

2018国際ゴールドマスターズ奈良大会 企画概要

2018 International Gold Masters Nara

2018国際ゴールドマスターズ奈良大会実行委員会

開催趣旨

日本の超高齢少子社会をはじめ世界の先進国においても急速な高齢化が進み、人々が健康の維持・増進に取り組むことが重要課題となり、なかでも健康寿命の延伸が急務になってきました。私たちマスターズは、それぞれが年齢に応じて競技を楽しみつつ国内はもとよりアジア大会・世界大会を開催し、マスターズの発展は社会的にも認知されてきました。

このたび、「2018国際ゴールドマスターズ大会」を、陸上・水泳を中心に他競技をいれた国際総合競技大会として奈良で開催することにより、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2021関西ワールドマスターズゲームズへの参加促進と大会成功へのアピールに貢献するものとなるべく努力しております。

加えて、スポーツを通じた国際貢献と生涯スポーツの振興により、医療費の削減等に寄与する大会を目指します。

また、本大会において、陸上競技会と水泳競技会のほか、他競技をいれた大会を同時に開催することは世界初の試みとなり、国家的な事業になるものと確信しております。

本大会を通じて、一人でも多くの方々へスポーツを通じた健康と生きがいづくりに寄与し、より多くの国民が東京オリンピック・パラリンピックの開催に理解と協力を得られることを開催の趣旨といたします。

皆様のご理解とご賛同を賜り、ご支援ご協力くださいますよう切にお願い申し上げます。



鴻池 清司

2018国際ゴールドマスターズ

奈良大会実行委員会 会長

実行委員長

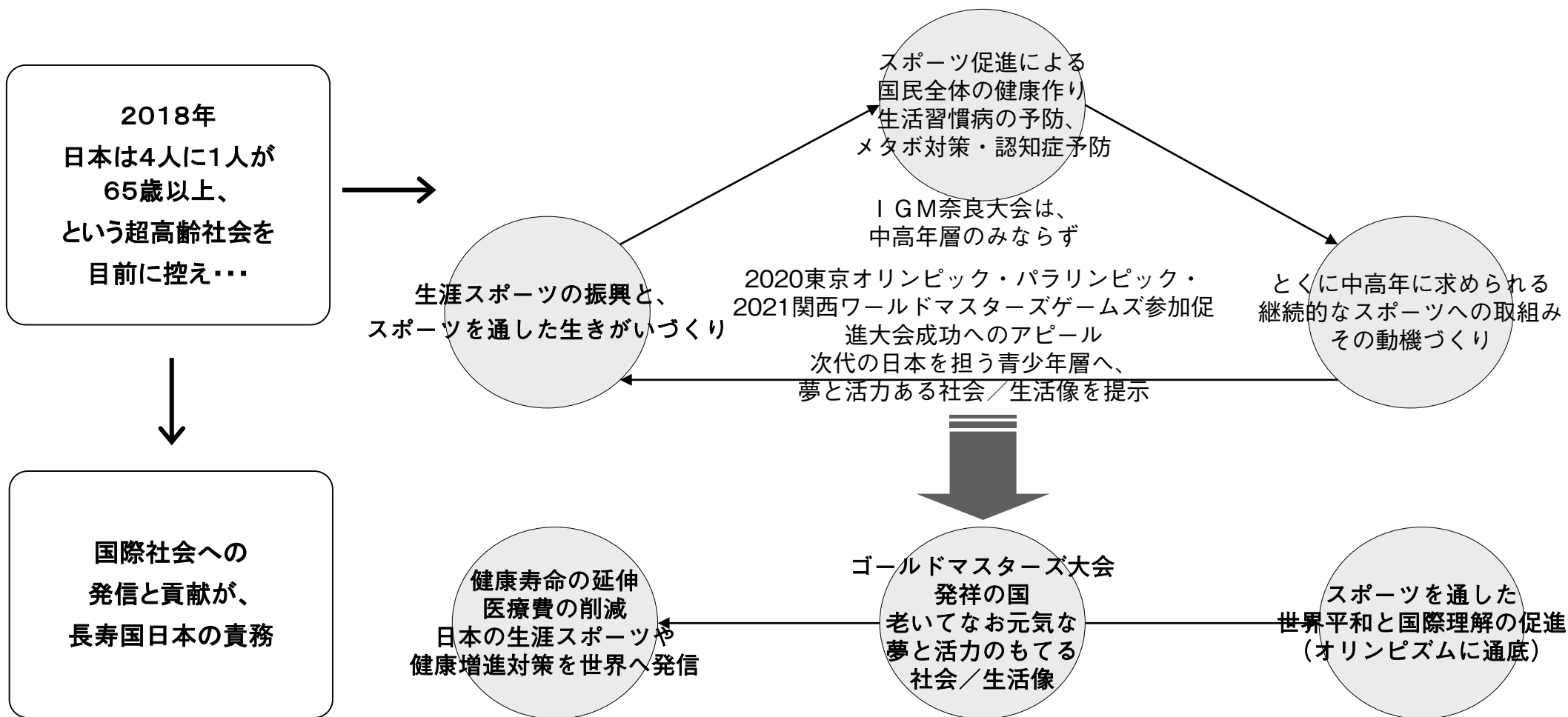
(一般社団法人)国際マスターズ競技連合 会長

(公益社団法人)日本マスターズ陸上競技連合 会長

開催の意義と目的

意義・目的

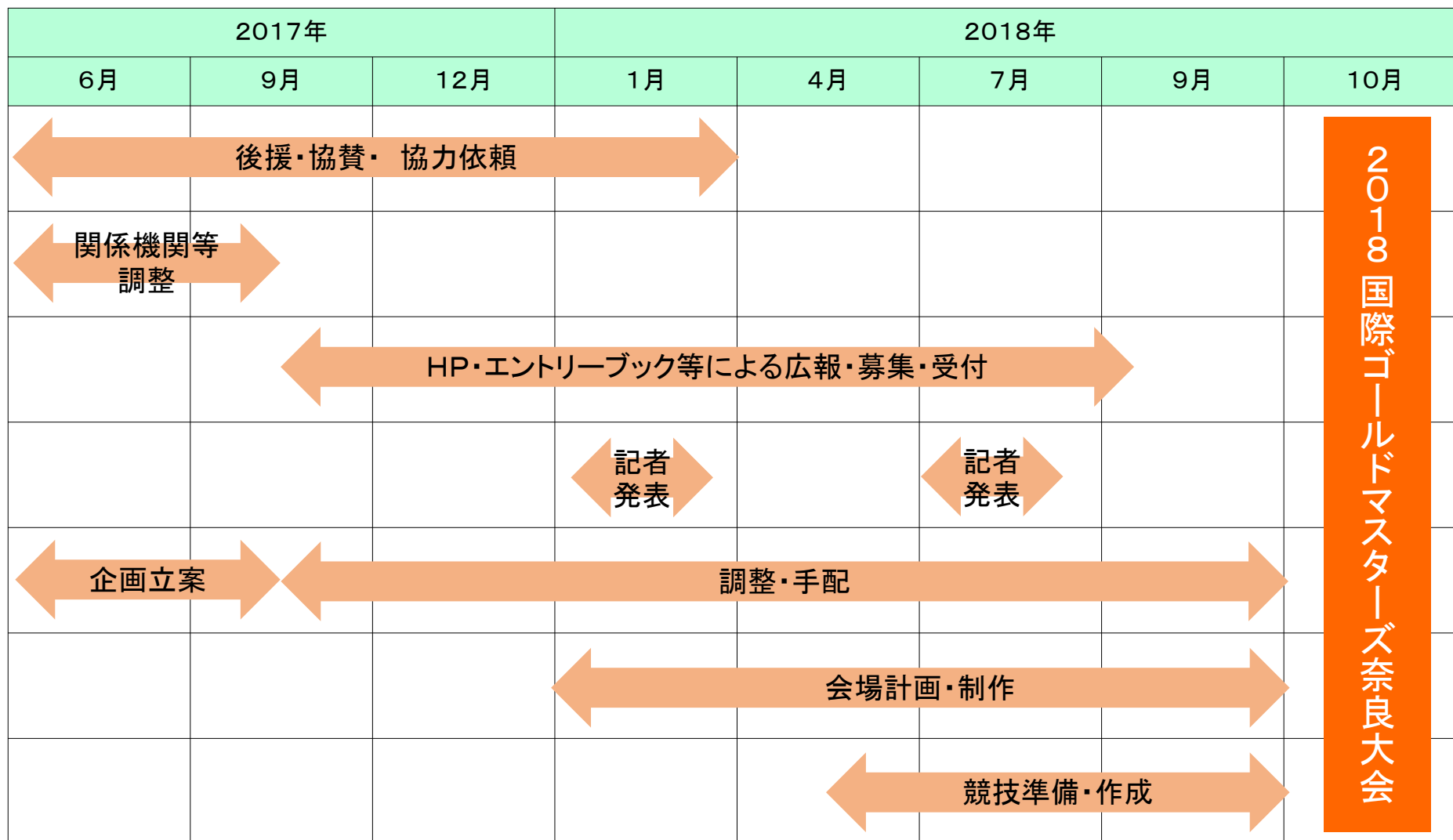
2018国際ゴールドマスターズ奈良大会が、
日本と世界にもたらすもの



開催概要(案)

- 名称 : 2018国際ゴールドマスターズ奈良大会
- 会期 : 2018年10月20日(土)・21日(日)の2日間又は、26日(土)・27日(日)の2日間(予定)
- 開催地 : [陸上] ならでんフィールド(鴻ノ池陸上競技場)
[水泳] 奈良県営プール
[卓球] 五條市上野公園総合体育館シダーアリーナ
- 競技種目 : [陸上] 男子23種目、女子21種目、リレー2種目
[水泳] 男子14種目、女子14種目、リレー4種目
[卓球] 男女別シングルス、ダブルス、年代別24種目
- 参加国 : [陸上] WMA加盟国—40~50ヶ国(予定)
[水泳] FINA加盟国—40~50ヶ国(予定)
[卓球] ITTF加盟国—50ヶ国(予定)
- 参加資格 : [陸上] 2018年大会開催日を基準とした満年齢による。男子・女子共18歳以上の者で次のいずれかに該当する者。
(1)国内居住者 : 2018年度日本マスターズ陸上競技連合に登録した者。(日本に居住する外国人含む)
(2)外国からの参加者 : 2018年度居住する国のマスターズに登録した者。
[水泳] 大会当日18歳以上の男女。
[卓球] 大会当日18歳以上の男女で日本卓球協会または居住する国の協会に登録した者。
- 参加者数 : 陸上、水泳、卓球 約 5,000名
- 主催 : 国際マスターズ競技連合
- 主管 : 2018国際ゴールドマスターズ奈良大会実行委員会
- 運営協力 : 奈良陸上競技協会、奈良水泳協会、奈良卓球協会 他
- 後援 : 文部科学省 外務省 厚生労働省 スポーツ庁 奈良県 奈良市 他
(予定) 奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、奈良県体育協会、奈良市体育協会、奈良県商工会議所、朝日新聞社、毎日新聞社、奈良新聞 他

スケジュール(概要)



(参考)実施主体について

陸上競技



公益社団法人日本マスタース陸上競技連合
Japan Masters Athletic (略称 JMA)

設立	1980年4月
目的	スポーツの基本である陸上競技を通じて「いつまでも心身の健康の維持増進につとめ陸上競技の普及と振興を図りつつもって生きがいのあるライフワークに寄与する」
会員数	12,000人
役員	会長 鴻池 清司 副会長 尾崎 宏、木村 清衣衛、山田 展也 専務理事 佐野 昭二 事務局長 岡 桂子

設立25周年を迎えた2005年に社団法人として認可を受け、2014年に公益社団法人の認可を受けました。

主な大会開催実績

- 1993 第10回世界ベテランズ陸上競技大会 (宮崎/13,000名)
- 1995 関西国際空港開港記念ブリッジロード大会 (大阪府/3,500名)
- 1998 第4回世界ベテランズロード選手権大会 (兵庫県/18,000名)
第10回記念アジアベテランズ陸上競技選手権大会 (沖縄県/3,000名)
- 1999 20周年記念国際・全日本マスタース陸上競技選手権大会 (熊本県/2,500名)
- 2001 マスタース日本一周健康リレー (日本全国/7,000名)
- 2014 第18回アジアマスタース陸上競技選手権大会 (北上市/アジア各国より約3,000名)

水泳



一般社団法人日本マスタース水泳協会
JAPAN MASTERS SWIMMING ASSOCIATION
(略称 JMSA)

設立	
目的	マスタース水泳の普及・振興に関する事業を行い、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。
会員数	
役員	理事長(会長) 高橋 繁浩 副会長・専務理事 高木 忠之 副会長 大河内 吉行 常務理事 土倉 敏男、中村 洋一、村山 よしみ

主な大会開催実績

- 1987 第1回世界マスタース水泳選手権大会 (東京/3,455名 ※海外参加 903名)
- 1987 第4回パンパシフィック水泳大会 (東京/3,430名 ※海外参加 162名)
- 2009 ウーマンズスイムフェスティバル09 (横浜/3,068名)
- 2010 日本マスタース短水路大会 (全国20会場/24,880名)
- 2010 ジャパンマスタース2010 (東京/6,976名)